

P3-6 高気圧酸素療法が有効だった一過性大腿骨頭萎縮症の2例

柳下和慶¹⁾ 神野哲也²⁾ 山見信夫¹⁾

外川誠一郎¹⁾ 眞野喜洋¹⁾

- | |
|---|
| <p>1) 東京医科歯科大学医学部附属病院高気圧治療部</p> <p>2) 東京医科歯科大学医学部整形外科</p> |
|---|

【はじめに】一過性大腿骨頭萎縮症 (TOH) は一過性に生じる大腿骨頭の変化で、臨床像では疼痛と可動域制限、組織学的には骨頭骨髄内の浮腫・壊死で特徴付けられ、本病態は一過性の微小循環不全による骨髄内圧の上昇と考えられている。保存的治療により自然軽快するが、通常自覚症状の消失に6ヶ月程度、MRIの改善に6ヶ月から1年程度を要する。一方高気圧酸素療法 (HBO) は、微小循環不全による浮腫・腫脹や低酸素環境を改善する効果がある。TOH に対する HBO の報告は過去1例のみであるが、今回 HBO を施行し著明な改善を認めた TOH の2例を報告する。

【症例1】35歳男性。2006年上旬、徐々に右股関節痛にて発症し、他院でのMRIにてTOHと診断された。前医からの紹介にて8月下旬当院初診し、2006年10月中旬まで計30回のHBOを施行した。HBOは第2種装置にて2気圧60分とした。9月20日、HBO18回終了後には全荷重歩行での疼痛は消失し、関節可動域は改善した。HBO30回終了後の10月25日 (発症後2ヶ月3週) のMRI所見は、ほぼ正常化した。11月中旬には、疼痛や可動域制限は完全に消失した。大腿骨近位の骨量も改善傾向だった。

【症例2】41歳男性。2007年1月下旬に発症。発症より2ヶ月間他院にて保存的治療後、2007年3月当院初診しHBOを開始した。4月HBO11回終了後には自覚症状がほぼ消失し、MRI上でも著明な改善が認められた。

【考察】骨頭内に浮腫と骨髄内圧上昇を呈するTOHに対しHBOを施行し、2例とも発症より3ヶ月にてMRIは正常化し、自覚症状は消失した。HBOはTOHに対し早期回復のための極めて有効な治療法と考えられる。

P3-7 アメリカにおける創傷治癒HBOエビデンスの認知と創傷治癒HBOセンターの発展

鈴木一雄

Medical Director, Tower Wound Care Center,

Cedars-Sinai Medical Center (Los Angeles CA)

慢性創傷とは、治療を受けながらも4週間以上治癒しない皮膚潰瘍を指し、先進国では総人口の2%に発生している。よって、総人口が3億人の米国では600万人存在し、日本では約250万人の創傷患者が存在すると推測される。

下肢の慢性創傷は高齢患者や糖尿病患者、透析患者に多く見られ、治療は虚血や感染、糖尿病神経障害などの合併症により困難になる。創傷治療が長引くことによる下肢の感染や壊死は、大腿・下腿での切断につながり、米国では毎年10万件を越える切断手術が行われている。

下肢切断処置は、手術やリハビリの医療コストが膨大に掛かるだけでなく、患者への精神的や経済的なダメージも大きい。また糖尿病患者で下肢切断を受けたものは25%以上の患者が寝たきりになり、肺がんにも匹敵する5年間で80%以上の死亡率との統計データがある。このような糖尿病患者の下肢切断は85%が足創傷が原因であり、医療エビデンスに基づいた治療法で創傷を一日でも早く治癒し、切断を未然に防ぐことが重要である。

HBO治療が創傷治癒や骨髄炎治療に効果的ということは、以前から知られていたが、Faglia et al (Diabetes Care 1996) など近年に医療エビデンスが確立されたことにより、米国のMedicareも2003年から創傷治癒にHBOが保険適用されるようになった。これによる米国での最新トレンドは、創傷治癒専門のクリニック、WCC (Wound Care Center) をHBOチェーンと共に開設することである。WCCチェーンの一社、Diversified Clinical Servicesの最新統計では、HBO治療を併用することで2ヶ月間の治療で85%以上の慢性創傷が完治できている。